

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400138		
法人名	(株)ユニマツそよ風		
事業所名	出雲ケアセンターそよ風(花風ユニット)		
所在地	島根県出雲市今市町876-9		
自己評価作成日	平成26年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvsoCd=3290400138-00&PrefCd=32&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市宗像53番地46
訪問調査日	平成26年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出雲市駅から徒歩5分で、出雲市の街の中心部に位置しており近所には商店も多い。季節の行事、イベントにも参加しやすく地域との交流もある。交通の便も良くご家族の面会も定期的にある。他事業所も併設しており、デイサービス、ショートステイと外部からのご利用者との交流もあり活気ある施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービス、ショートステイ、居宅介護支援事業所が併設された3階建ての建物の3階にグループホームがあります。出雲駅近くと言う事もあり、利用者の方々にも馴染みのある地域であり、商店街の方やデイサービス利用者と馴染みのものもあり、現在も馴染みの関係を継続されています。管理者、職員は利用者、家族から思いや意向を聞きながら、個々にあった最善のケアに取り組んでおられます。家族会もあり、年1回外出をされ、いちご狩りに出かけられ楽しまれました。七夕には保育園児と七夕飾りをされ和やかな交流を楽しまれた。職員、利用者共に、楽しく生活され、笑顔の溢れるホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲げ、職員の目に付く所に貼り意識してご利用者に接するよう心掛けている。	事業所の理念を職員の目に付く所に貼り理念のもとケアを行っておられます。全体朝礼、各ユニットごとの朝礼、申し送り時に理念の唱和をしている。リーダー会で振り返りを行い職員全員の理念の共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出掛け、近隣の施設や商店を利用している。また、散髪に近所の理髪店、美容院から来て頂いている。	自治会にも参加し、地域の清掃に参加したり、行事の案内を頂いている。出雲ケアセンターそよ風の周年祭に近所の方にもお声をし、参加して頂いて楽しまれた。散歩は利用者の状態や天候を考え近所回りを無理のないよう行われる。買い物は地域の商店街に出かけ買い物や障害者のサロンでお茶を飲まれるなど交流が持たれている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で事業所の様子を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で利用者の状況、活動内容を報告し、近隣住民の方や、市・安心支援センター職員の意見を参考に今後の活動に活かしている。	2ヶ月に1回開催されている。利用者家族、出雲市職員、安心支援センター職員、地域住民の代表が参加され入居状況、活動状況、散歩や外出、ホーム建物周辺の防犯、日々の日課等意見交換が行われている。頂いた意見等を参考に、管理者、ホーム長はサービスに活かし取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で状況を報告し、必要があれば間でも電話による報告・相談を行っている。	運営推進会議に出席いただき、入居状況、活動状況、ケア等報告されている。また、申請や介護保険変更等、相談報告されている。出雲市のグループホーム連絡協議会にも出席され意見交換されている。安心センターから空き状況の問い合わせの連絡等もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体の勉強会の中で勉強する機会を持ち、ベッド柵、鍵の施錠等ご利用者の安全が確保された状況で、身体拘束のない介護に取り組んでいる。	出雲ケアセンターそよ風全体の勉強会が行われ職員は理解をされている。スピーチロックは日々のケアの中でも話し合い取り組んでいる。職員会議でもスピーチロックやベッド柵について話し合いが行われ理解されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体の勉強会の中で勉強する機会を持ち、虐待が見過ごされることが無いよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体の勉強会で学ぶ機会があったが、現在の所該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は説明を丁寧に行うよう努め、その後の関係を良好に保てるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等は出来るだけ職員に言って頂けるよう、面会時に声掛けをし伺っているが、外部の機関についても契約時に説明を行っている。	家族の面会時に声かけをし要望、意見を聞いている。運営推進会議や家族会でも意見等聞かせるようにされている。遠方の家族には請求明細送付時に風の歳時記を同封し様子を知らせ意見要望も連絡して欲しいと記述されている。職員全員の顔写真が大きく見やすくなってホーム入口に貼ってある。家族、来所者に分かりやすい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長は職員ひとりひとりと定期的に面談を行い、意見を聴く機会を設けている。	センター長が年2回個人面談で、職員の要望、意見等を聞いている。月1回の職員会議では利用者各々のケア等の意見要望を聞き検討、改善に取り組んでおられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長は職員ひとりひとりと定期的に面談を行い、意見を聴く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修案内を開示したり、内部の研修を必要な職員に声を掛け、参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市のGH連絡協議会に加入し、同業者との交流の場に参加したり、勉強の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面会し、入居について不安な点やその後の対応について一緒に考え、取り組むよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に現段階においての困っている事、要望等を聴き、家族も不安が無いよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーやご家族との話し合いを行い、現段階で入居が必要かどうか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る力を活かし、家事作業等に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要があればその都度相談をし、家族で出来る事はお願いをし対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多いため近所への散歩をしたり、馴染みの方の面会がいつでも出来るよう支援している。	地元の入所者が多いので近所の散歩や商店街へ行き馴染みの関係が継続している。デイサービス利用者の面会があり馴染みの方と交流がある。商店街の障害者のサロンに出かけお茶を呼ばれたりお菓子を買われるなど馴染みの関係が継続されている。7月には七夕の飾り付けに保育園児の来所があり楽しめました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を意識し、席順を変更したり出来るだけ円滑な人間関係が築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退居後の相談等を受けたことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりに合った暮らしが提供できるよう、日頃から何気ない発言も聞き逃さないよう努めている。	アセスメントや日々の会話の中から思い意向を把握している。困難な方は家族より聞きケアに取りいれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとりずつの人生背景を理解し、ひとりひとりに合った暮らし方が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりずつの介護記録に一日の様子(バイタル、食事・水分量、排泄状況等全ての情報)を記録し一目で全職員が把握できるように対応している。また、送りノートを活用し必要な引き継ぎを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で職員が意見を出し合い、ご利用者ひとりひとりのケアについて話し合っている。また、ケアプラン説明時にはご家族にご意見を伺うよう声を掛けている。	毎月のユニット会議でカンファレンスを行い介護計画そったケアに取り組んでいる。モニタリング月1回、評価3ヶ月1回実施されている。	日々利用者の方が、生きがいや目的を持ちながら、生活できるようなプランも検討されていくと良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録物の共有または、ユニット会議の場等で情報を共有しケアの変更や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全体のレク活動ではデイサービスやショートステイご利用者との交流があり、GH入居後も友人との交流を継続して楽しみにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のサロンや駅、商店への外出や、近所の理容院・美容院の訪問を楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ希望の掛かりつけ医を継続し、往診や家族にも受診対応してもらい安心して医療が受けられるようにしている。	在宅時のかかりつけ医を継続され家族と受診されている。希望により協力医に変更される方もあり往診で医療受けられている。それぞれ受診、訪問看護による医療連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者は訪問看護師に毎週水曜日に訪問してもらいバイタルチェックを受けている。職員はご利用者の身体状況の報告、相談を行い必要な対応を尋ねて実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は病院の医師、看護師、相談員と必要な情報交換の場を持ち、現状の把握や退院後の対応を伺い、利用者の健康が維持出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しているご利用者については、都度ご家族と面談しGHで出来る事を説明し、最期の場所を選択して頂いている。主治医、訪問看護師、薬局の協力を得て看取りも行っている。	ターミナル指針があり重度化の対応、看取りについて家族、かかりつけ医、職員で相談している。看取りをされたことがあるため職員は理解されている。看取りの研修も行われていた。	職員の心のケアや死生観も含めた研修も実施されると良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、救命講習を受けている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定消防訓練を年二回実施し、職員が交代で参加している。	夜間想定訓練を年2回実施されている。避難場所は1回ケアセンターそよ風の駐車場。グループホームは3階のため、階段で避難よりもホームペランダに避難し、はしご車の救助を待つことが良いと思われる。備蓄はセンター全体で管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議の場では、ご利用者への声掛けについての注意をし言葉使いを常に意識している。排泄時や入浴時はプライバシーに配慮した対応を行っている。	センター全体や、ホームの職員会議で研修が行われ職員は理解されている。排泄や入浴は利用者の誇りやプライバシーに配慮され対応が行われている。言葉使いについても日々職員は気をつけ振り返りをされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望を訴える事が出来るよう努め、都度傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿う様には対応している。本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を着て頂いている。また、行きつけの美容院から来て頂きおしゃれに気を付けておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い(野菜切り)や準備(テーブル拭き)片付け(食器・お膳拭き)等一緒にして頂いている。	花風では野菜きり、テーブル拭き、片づけなど役割を持って職員と一緒にされる方がおられる。夕風は認知が進まれた方、介助の方が多く一緒に家事の役割ができる方は少ない。手作りおやつは声かけをし職員と共に楽しみながら行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し必要量を摂れるよう好みの物を提供したり工夫している。嚥下機能が低下されている方には、水分にトロミをつけ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じた対応を行い、入れ歯の方は全員夕食後入れ歯を洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄出来る様、トイレ誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握されトイレ誘導が行われている。介護度が重くなってもトイレで排泄の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く使用し、出来るだけ水分が多く取れるよう心掛けている。また、ヨーグルトや、牛乳も毎朝提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日毎に入って頂き、本人の希望の時間帯に入浴して頂いている。	一日おきに午後入浴が行われている。利用者自ら希望される方がないため職員が声かけをしながら利用者に合わせ入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は眠れない方を除いては昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が一括して全ご利用者の薬を管理しており、薬の処方の変更があれば都度説明がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力量に合わせて家事作業をして頂いたり、楽しみの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望通りにいかない事もあるが出来るだけ沿うように努めている。年に一度はご家族の方にも案内し、苺狩りや大社への参拝等の外出もしている。	地域の商店街にある障がい者施設のサロンでコーヒーを飲まれている。暑い時期なので利用者の様子を見ながら散歩を行っている。年に一度は家族に案内をされ家族と外出をされいちご狩を楽しまれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりの方が所持金を持っておられ、外出時自分の好きなものを購入したりされているが、その他の方はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有され自分で好きな時に掛けている方もいる。また、ご家族へ暑中見舞い、年賀状を出す際可能な方はコメントを書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度に気を付け快適な空間を作っている。また、季節が感じられる様な壁の装飾を心掛けている。	暑い時期なのでエアコンでホールや居室の室温の調整をされ熱中症に気をつけた支援が行われていた。廊下の壁には外出、行事の写真が貼ってあり利用者の方の楽しそうな笑顔で溢れていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやホールと好きな場所で自分の過ごしたい所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物を持参して頂いたり、ご家族の写真を飾って頂き、安心して過ごせるよう配慮している。	使い慣れた机、家族の写真、好みの小物など持ち込まれ安心して居心地よく過ごされる配慮をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーの状態ですべて自由に隣のユニットとの行き来を楽しんでいる。また、ベランダで洗濯を干したり、景色や植物の観賞を楽しんでいる。		